

基本調査票

本調査票は、貴事業所の基本的な概要について記載していただくものです。

本調査票の記入日： 平成 29 年 11 月 1 日

設置・運営主体	社会福祉法人 埼玉県社会福祉事業団		
設置主体	社会福祉法人 埼玉県社会福祉事業団		
経営主体	社会福祉法人 埼玉県社会福祉事業団		
事業所名 (施設名)	埼玉県社会福祉事業団 あげお	種別	障害者支援施設
所在地	〒362-0011 埼玉県上尾市平塚820		
電話	(048) 771-0537		
FAX	(048) 771-0593		
Email	ageo@sswc-gr.jp		
URL			
施設長氏名	恩田 隆弘		
調査対応担当者	川方 弘子 (所属、職名： 副園長)		
利用定員	80名	開設年	昭和 57 年 4 月 1 日
理念・基本方針			
<p>◎経営理念 「埼玉県社会福祉事業団は、利用者、職員、地域社会がお互いに支え合い共に歩む施設を目指し、地域福祉に貢献します。」</p> <p>◎経営方針</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 安心・安全な利用者支援 利用者の方々に安心して利用していただくため、一人ひとりの意向を踏まえた支援を行い、安全で快適な生活環境を提供します。 2 愛情支援 職員は、元気・優気・根気を旨とし、利用者の方に対し、常に愛情を持ち、気づきの心できめ細やかなサービスの提供を行います。 3 効果的・効率的な施設経営 社会福祉を取り巻く状況の変化に対応し、持ちうる経営資源を有効に活用しながら、効果的・効率的な施設経営を行い、自主経営基盤の確立を目指します。 4 経営の透明性 福祉サービスや経営情報の公開を推進し、経営の透明性を確保することにより、利用者及び県民から広い理解と信頼を得られるようにします。 5 継続的な改善 各施設及び本部事務局は毎年度経営目標を定め、常に達成度の確認と見直しを行い、継続的な改善に努めます。 			
開所/退所時間 (通所施設のみ)			

【利用者の状況に関する事項】

○利用者の年令

18歳未満	18～20歳未満	20～25歳未満	25～30歳未満	30～35歳未満	35～40歳未満
0名	0名	2名	1名	3名	5名
40～45歳未満	45～50歳未満	50～55歳未満	55～60歳未満	60～65歳未満	65歳以上
12名	9名	22名	8名	3名	15名
					合計
					80名

○障害等の状況

・身体障害（障害者手帳を所持している利用者についてご記入ください。）

障害区分	1級	2級	3級	4級	5級	6級	7級
視覚障害	1名	名	名	名	名	名	名
聴覚又は平衡機能の障害	名	1名	1名	名	名	名	名
音声・言語、そしゃく機能の障害	名	1名	1名	2名	名	名	名
肢体不自由	1名	名	1名	名	名	名	名
内部障害（心臓・腎臓、ぼうこう他）	名	名	名	名	名	名	名
重複障害（別掲）	名	2名	1名	名	2名	名	名
合計	2名	4名	4名	2名	2名	名	名

※区分が異なる複数障害で等級の認定がなされている場合は「重複障害」に記入ください。

・知的障害（療育手帳を所持している利用者についてご記入ください。）

A ※	B	C
71名	9名	0名

※「A」には丸付きのAを含む。

・精神障害（精神障害者保健福祉手帳を所持している利用者についてご記入ください。）

精神疾患の区分	1級	2級	3級
統合失調症	名	1名	名
そううつ病	名	名	名
非定型精神病	名	名	名
てんかん	名	名	名
中毒精神病	名	名	名
器質精神病	名	名	名
その他の精神疾患	名	名	名
合計	名	1名	名

○要介護区分の状況（介護保険対象サービス事業所のみご記入ください。）

自立・要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
名	名	名	名	名	名

○サービス利用期間の状況

～6か月未満	6か月～1年	1年～2年	2年～3年	3年～4年	4年～5年
3名	6名	1名	3名	1名	2名
5年～6年	6年～7年	7年～8年	8年～9年	9年～10年	10年～11年
1名	1名	2名	2名	1名	1名
11年～12年	12年～13年	13年～14年	14年～15年	15年～16年	16年～17年
2名	0名	1名	3名	2名	4名
17年～18年	18年～19年	19年～20年	20年以上		
0名	0名	0名	44名		

(平均利用期間： 20.5年)

【職員の状況に関する事項】

	総数	施設長	事務員	主任支援員	支援員
常勤	65名	1名	3名	15名	35名
非常勤	16名	名	名	名	8名
	主任介護職員	介護職員	保育士	看護師	OT、PT
常勤	名	名	名	2名	名
非常勤	名	名	名	名	名
	栄養士	介助員	調理員等	医師	その他
常勤	1名	名	名	名	8名
非常勤	名	名	名	7名	1名

○他の有資格者数

副園長・主幹・寮長4・相談員2

心理士

社会福祉士	9名 (0名)
介護福祉士	11名 (0名)
精神保健福祉士	2名 (0名)
保育士	11名 (0名)
ヘルパー1級	名 (0名)
ヘルパー2級	16名 (0名)
介護支援専門員	5名 (0名)

(非常勤職員の有資格者数は () に記入)

【本来事業に併設して行っている事業】

(例) 救護施設における通所事業 (定員5名)

【ボランティア等の受け入れに関する事項】

・平成 28 年度におけるボランティアの受け入れ数 (延べ人数)

413 人

・ボランティアの業務

- 絵手紙、生け花サークル、喫茶室等余暇支援ボランティア
- 手工芸裁縫、押し花作成、タオル畳、レクリエーション等日中活動支援ボランティア
- 太鼓演奏、楽器演奏等行事支援ボランティア
- 利用者の買い物、散歩支援ボランティア
- 除草等環境整備ボランティア等。

【実習生の受け入れ】

・平成 28 年度における実習生の受け入れ数 (実数)

社会福祉士 4 人

介護福祉士 人

その他 60 人 (保育士)

【施設の状況に関する事項】

※耐火・耐震構造は新耐震設計基準 (昭和56年) に基づいて記入。

(1) 建物面積	6007.63	m ²
	入所(通所)者1人あたり	75.1 m ² (延べ床面積÷定員)
(2) 耐火・耐震構造	耐火 <input checked="" type="checkbox"/> 1. はい <input type="checkbox"/> 2. いいえ	
	耐震 <input checked="" type="checkbox"/> 1. はい <input type="checkbox"/> 2. いいえ	
(3) 建築(含大改築)年	平成	27 年

【サービス利用者からの意見等の聴取について】

貴施設(事業所)において、提供しているサービスに対する利用者からの意見を聞くためにどのような取り組みをされていますか。具体的にご記入ください。

- 1 年1回生活全般における利用者満足度調査を実施し、サービスについて点検、分析、改善し、向上に向けた取り組みを実施している。
- 2 年1回嗜好調査を実施し、利用者の嗜好を把握し、献立作成へ活かしている。
- 3 法人として、サービス自己評価体制をつくり、年1回自己評価を実施し、結果について評価、改善し、効果の確認をしている。
- 4 各フロアから代表者を募り、利用者参画の元、生活委員会を月1回開催している。生活委員会の中で利用者の困っていることを聞いたり、希望を聞いたりする場をつくり、満足度向上に取り組んでいる。
- 5 個別支援計画策定時、モニタリングの際には、利用者及び家族の希望や意見を聴取し計画に反映させている。
- 6 外出、旅行、行事の際の食事メニュー等個別に聴取している。
- 7 言葉によるコミュニケーションが難しい利用者に対しては、写真や絵などを使用して意見聴取している。
- 8 苦情解決の仕組みとして、相談窓口を設置し、利用者からの要望・苦情等を聞く体制を整備している。
- 9 月に1回の家族会に職員も参加し、利用者満足を把握したり、聴取する機会としている。
- 10 日常的に利用者、家族等との話し合いの機会をもったり、意見箱を設置して意見要望を聞く機会をつくったりしている。

【その他特記事項】

- 1 日中活動について
利用者の高齢化、重度化に対応するために改築を機に日中活動における支援体制、活動メニューの見直しを行った。従来の作業のみでなく、表現活動や音楽活動等を取り入れたことで、高齢者や重度化の進んだ利用者が参加しやすくなった。生活支援担当と地域支援担当の職員が協力して支援を行うことにより、活動を中止することなく、安定的な活動の提供が可能になった。
表現活動(手法や技法にとらわれない自己表現を行う活動、自己表現を通して社会とつながりを作っていく活動)を通して、作品展への出展、利用者作品のグッズ化をすすめている。多くの人に見てもらうことで、利用者、家族の喜びに繋がっている。
- 2 権利擁護の推進について
 - (1) 年2回のセルフチェック(法人で実施)、年5回の行動基準の自己チェック(施設独自に実施)を通して、振り返り職員間で意見交換を実施し、改善に向けて取り組んでいる。
 - (2) 部署ごとに権利擁護に関する目標を定め、振り返り、意識の改善、継続して取り組んでいる。
 - (3) 外部講師を呼び施設内研修を実施し、日頃の支援の振り返り、権利擁護、意思決定支援について学び意識啓発を行っている。
- 3 危機管理について
事故防止に向けた取り組みとして、ヒヤリハット報告書の有効活用に取り組んでいる。
ヒヤリハット報告の分析から具体的な対策を立てて取り組み、大きな事故に繋がらないようにしている。
- 4 人材育成について
 - (1) 契約職員にジョブパートナーを指名し、OJTや面談等で育成を図っている。
 - (2) 3年未満の職員対象にスキルアップ研修を実施し、支援技術の向上、懇談会を実施している。
 - (3) 施設内研修の充実と共に外部研修に積極的に参加させ、研修内容について職員全体で共有している。
- 5 利用者の高齢化への対応について
高齢対応委員会を設置し、高齢化対策に取り組んでいる。理学療法士によるアドバイスを受けて運動の実施、日中活動で運動を実施している。
歯科医師による摂食指導、口腔ケアの研修を実施している。